

2. 文化複合施設整備事業の債務負担行為廃止についてお伺いします。市は四条図書館、郷土博物館、埋蔵文化財センター及び旧市史史料室を一体的に整備する文化複合施設整備事業において、新型コロナウイルス感染症に関する対応に財源が必要になること、歳入環境が大幅に悪化することが予想されることを考慮し、本年3月議会で決定した令和4年までの11億9千万円の債務負担行為を廃止する議案を提出しました。

四条図書館、市史史料室はすでに今の建物の中にあり、埋蔵物文化財センターは別の場所があり、郷土博物館も立地や耐震性に問題があるとはいえ既に別の場所で存在していることを考えると、緊急性や必要性から見て施策の優先順位がコロナ対策事業より劣位にあることは十分理解できます。

しかし、事業がいったん凍結になると、

2009 第3回定例会 中西個人質問

再度実現するのはなかなか困難であると言わなければなりません。花園中央公園内に計画されていた緑化センター構想は、基盤造成工事も行い実施設計もできて平成28年には完成している予定でしたが、最終的には国の予算がWカップ優先で公園整備につかなかった関係で、建設されないまま事業が凍結されている例もあります。

文化複合施設整備が計画されていた建物は、もともと地元の財産区の池であったものを埋め立て、昭和45年に市民病院として建てられたものが介護老人保健施設四条の家と東診療所になり、公共施設再編整備計画でどちらも廃止され、耐震工事をするのか、立て替えるのか、売却するのか、いろいろな選択肢があった中で耐震工事が行われ、仮庁舎として使われた後、紆余曲折の経過を経て文化複合施設が計画されたもの

2009 第3回定例会 中西個人質問

です。建物の用途は地元にとって非常に重要な関心ごとであり、地域にとっても市にとっても有効な活用をしてほしいと強く念願するものです。

市長は「延期はより良い施設ができないかを考える時間にしたい」と会見で述べておられますが、計画そのものを見直す時間にするのか、計画をそのまま生かしてその内容をより良いものにすることのお考えなのか。その見解を問います。どちらにしても、早い段階で結論を示さなければなりませんし、具体的な活用がスタートするまでは、今の現状を生かしながら、地域の集いの場やコミュニティサロンなど暫定的に地域のために使うことを考えることが必要であると思いますが、市長の見解はいかがですか。

2009 第3回定例会 中西個人質問